

研究ノート

ベトナムの小学校英語教科書（Tieng Anh 1—3）の 語彙と文法項目の分析

——三省堂発行中学校英語教科書 New Crown English Series 1—3 との比較——

八 田 玄 二*

Analysis of the Vocabulary and Grammar Items of the Vietnamese Primary School
English Textbooks in Comparison with the Japanese Junior High School
English Textbooks (Sanseido's New Crown English Series)

Genji HATTA

はじめに

筆者は平成17年度文部科学省研究助成金（基盤研究C企画調査）を受けて、ベトナムにおける小学校英語教育の実情調査の目的で、2005年と2007年の2度にわたってハノイとホーチミン市を訪問した。教育訓練省初等教育局長、バクザン省教育委員ならびにバクザン教育大学教官、同省の小中学校の英語教師など早期英語教育関係者と面会し、さらに、ハノイ郊外のバクザン省の小学校と中学校で英語の授業を参観し、ビデオに撮影する機会を得た。

ベトナムでは、1986年に、それまでの教条的な社会主義路線を修正し、「ドイモイ」（刷新）と呼ばれる現実的な社会主義路線に切り替え、自国の市場を開放し、国際市場にも積極的に参入することにした。この国家的な決意を実現するために、義務教育の段階から英語教育を実施することになった。2002年度から、新カリキュラムが施行され、応用言語学や教育学の最新の知見を取り入れ、教科書を全面的に改訂し、「早期英語教育」として、小学校の第3学年から選択科目として開始されることになった。しかしながら、ベトナム社会のあらゆる局面に巣くう格差、劣悪なインフラ、不十分な教員養成制度、決して高いとは言えない教員の質というようなベトナムならではの深刻な問題を抱えたまま、やや“強引に”始められた「早期英語教育」だけに、現場の教師たちも、与えられた先進的な教科書を十分、活かしきっていないようである。

わが国においても、今回の学習指導要領の改訂に伴って、2011年度から小学校高学年の「英語活動」が必修化されることになった。さらに、将来、“見切り発車的に”小学校の英語が「教科化」され、教科書が編纂される事態を予測すると、この分野では日本よりも一歩先を進むベトナムの現状は、さまざまな点で、わが国にとって「他山の石」となすべき

* 国際コミュニケーション学部

教訓を示唆しているようである。

I. ベトナム小学校英語科指導要領（2003 年公布）¹⁾

教科書名：TIENG ANH 1（小学校 3 年生）～ TIENG ANH 3（小学校 5 年生）

1. 教科書のシラバス・デザイン的な視点からの分析：

(i) 目 標：

- (a) 家庭や学校において、英語を使って簡単なコミュニケーションをするための基本的なスキルを習得すること
- (b) 英語圏の国とそこに住む人々、その文化についての理解を深めること
- (c) 英語の学習を通して母語ベトナム語に対する理解と愛着を深めること
- (d) 学習方法を学び、知育に資すること

(ii) トピックス、言語材料の選別と配列

トピックス：

- (a) self and friends（自分と友達）
- (b) family and daily activities（家庭と日常生活）
- (c) schools and playing activities（学校と遊び）
- (d) the surrounding world（地域社会と世界）

(iii) 言語活動：

「聞くこと」 既習の話題や文法を使った対話の要点を理解し、短い簡単な文章の内容を理解すること

「話すこと」 基礎的な語彙や文を使って自分、家族、学校、遊び、娯楽について話せるようになること

「読むこと」 各学年の指導要領に記載されている語彙や構文が使われている 40～50 語から成る簡単な文章や対話の要点を理解すること

「書くこと」 既習の語彙や構文を使って特定のトピックや出来事について簡単な文章が書けること

(iv) 言語材料：

—語彙数—

TIENG ANH 1（小学校 3 年生）120～140 語

TIENG ANH 2（小学校 4 年生）140～160 語

TIENG ANH 3（小学校 5 年生）180～200 語

総計 440～500 語

—文法項目—

現在（過去）完了形、受動態を除き、8 品詞、単文、重文、命令文、疑問文、平叙文など日本の中学校で扱われる項目はほぼ小学校レベルで網羅されている。

1) この指導要領は、筆者がベトナム国教育訓練省より独自に入手し、それをハノイ外国語大学教授 Cam Tam Ha 氏に英訳をしていただき、筆者が邦訳したものである。

—機能 (functions) —

Greeting, Introducing oneself, Talking about your family, Naming and describing things you find at school, Talking about the weather, Talking about likes and dislikes, Talking about countries and nationality, Talking about your favorite jobs, Talking about plans for school excursions

第3学年から5学年までの3年間に、延べ数でおよそ60余りの機能や場面が、テキストのテーマ(例：自分と友達；家族と日常生活)に合わせて、繰り返し扱われている。

(v) 解説編：

Guidance for English Program (解説編) の要点：

1. コミュニケーション (communicative orientation) の重視
2. 正確さ (accuracy), 言語使用 (reality of language) の両面への配慮
3. コンテキスト (contextualization), 使用頻度 (a high frequency of use) の重視
4. 授業時数——週2時間, 年間35週, 合計210時間, 一時間は35分～40分。
5. 資格のある教師 (recruiting qualified teachers) の確保と現職教育 (In-service training) の充実
6. 適正なクラス・サイズ, 教科書, 教具, 参考書, AV 機器の確保
7. 評価 (evaluation) とモニタリング (monitoring) の実施

*ベトナムの小学校英語教科書のシラバス・デザインは、「文法シラバス」(Grammar-based) による配列ではなく、むしろ、「トピック中心」(Topic-based) である。トピックの周辺に語彙、文法が「らせん状」に繰り返し出現する。そのために、教科書のページ数も増える。日本の教科書編集が過度に“洗練”されすぎていて、かえって内容が希薄になっている。

*尚、ベトナムでは小学校の英語は必修科目ではなく、選択科目であるため、教科書は、TIENG ANH 1～3以外にも、Oxford から出ている *Let's Go* や、シンガポールの協力で作られている *Let's Study English* が多くの小学校で使用されている。

参考：日本の小学校の英語活動との比較：

『小学校学習指導要領』第4章 外国語活動 (2008年3月公示) より抜粋

1. 目標：

「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」

2. 「外国語活動」の内容 (第5学年と第6学年)：

- * 外国語 (言語) を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- * 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- * 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- * 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い：

- * 言語や文化について体験的な理解を図ることが目的で、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的にならないようにすること。
- * 指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作などの他教科で学習したことを活用するように工夫すること。
- * 指導計画の作成や授業は、学級担任の教師または外国語活動を担当する教師が行う。ネイティブ・スピーカーの活用に努める。
- * CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること。

日本とベトナムの際立った相違点：

ベトナム：具体的な到達目標（performance objectives）を明示
日本：スキル面での到達目標を持たない。態度の涵養のみ

参考：中学との連携への配慮：

中学校学習指導要領（2008年3月公示）

(ア) 第1学年における言語活動

「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されていることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること」

(下線は筆者による)

Ⅱ. ベトナムの小学校英語教科書 (Tieng Anh 1—3) の語彙と文法項目 (言語材料) ——三省堂発行 New Crown English Series1—3 (中学校検定教科書) との比較

TIENG ANH の語彙数

3年生——104語, 4年生——96語, 5年生——197語, 合計397語

三省堂発行の New Crown English Series (NC) New Edition (2006 年発行)

1—3 の語彙とその出現数の比較

(1) TIENG ANH の語彙の中で、NC の語彙リストに含まれている単語：

3年生 89語 (NC1 = 75 NC2 = 5 NC3 = 2) 比率 82/104 = 78.8%

4年生 55語 (NC1 = 37 NC2 = 16 NC3 = 1) 比率 $54/96 = 56.3\%$

5 年生 122 語 (NC1 = 61 NC2 = 40 NC3 = 15) 比率 $116/197 = 58.9\%$

3 学年合計 266 語 比率 252/397 = 63.5%

つまり、ベトナムの教科書で使われている語彙の 60 パーセント以上が、New Crown の教科書 (1-3) でも使われていることになる。特に、小学校 3 年生のテキストの単語の 8 割が、日本の中学生が 3 年間で学ぶ単語となっている。

(2) TIENG ANH の語彙の中で、NC の語彙リストに含まれていない単語：

3年生 10語

4 年生	43 語	
5 年生	67 語	
3 学年合計	120 語	比率 : $120/397 = 30.2\%$

内訳：ベトナムでは履修されているが、日本の教科書には載っていない単語とその特徴

3 年生 (10語)

bathroom, bedroom, blackboard, eraser, flat, lamp, living-room, Miss, primary school, ruler

これらは、学校生活に関したものが多く、たまたま三省堂のテキストでこれを扱うレッスンがなかったからであろう。教科書の編修上の問題である。

4 年生 (43語)

apple, banana, biscuit, blond, bread, chewing-gum, chicken, chocolate, coat, color, dark, dictionary, driver, draw, drink, family name, flute, gloves, grade, hamburger, ice-cream, key, meat, midnight, milk, neighbor, orange, pants, pen-friends, pink, purple, scarf, shirt, shoes, skirt, sleep, socks, spell, supper, sweater, tennis, vegetable, yellow

主として、日本ではこれらの語彙は、日本語（外来語）として既に、子どもたちの間では定着しているものばかりである。ベトナムの小学校指導要領の「目標」の項に『英語圏の国とそこに住む人々、その文化についての理解を助けること』とあるように、このような西洋の生活文化に関する語彙が英語の教科書に多く載せられているのは興味深いことである。わが国ならば、「欧米崇拜主義」の“そしり”を免れないところである。

5 年生 (67語)

add, alone, amazing, aspirin, autumn (NC ではアメリカ英語の fall を載せている), badminton, barn, bat, beer, behind, bell, bone, bookshelf, break time, brush, celebrate, centimeter, cheap, chess, comb, Concorde, decide, deep, dictionary, dirty, divide, dry, excited, expensive, flu, footballer, friendly, giraffe, gram, grape, hate, honey, in front of, intelligent, lemon juice, lock(v), math, meter, mineral water, noisy, ocean, pack(v), quiet, rarely, soldier, sore, stomachache, straight ahead, suitcase, swimming costumes, thick, thin, ton, toothache, traffic lights, T-shirt, Vietnamese, weigh, wet, wide, win, zebra

これらの単語の中には、日本の中学校レベルをはるかに逸脱したレベルに属しているものも散見される。多くのものが高校で扱われるものである（例：add, alone, art, aspirin, away, barn, behind, brush, celebrate, comb, decide, divide, exited, intelligent, rarely, temperature, weigh など）。

Ⅲ. 表現と文法項目（言語材料）の比較

3学年 (Tieng Anh 1) :

1. I'm ~, My name is ~, What's your name?
2. This is my dad, This is my friend, Nina.
3. He is my brother. She is my Nga. This is my pet. Its name is Black.
4. What's your name? Who's this (that)?
5. Where's your school? It's on Le Loi Street.
6. My school is big. She's pretty.
7. Close the book. Read the book.
8. I have a bag. It's on the table. I have a cat and a dog. They are black
9. They are our teachers.
10. It has a big bathroom.. It has two bedrooms.
11. How many books do you have? I have two books.

4学年 (Tieng Anh 2) : (3 学年で履修した項目は省略)

1. Where are you from? I'm from Hanoi.
2. How do you spell it? How old are you, is he (she)?
I am 10 years old.
3. What group are you in? I'm in 4C.
4. Would you like a banana/some biscuits? Thank you/No thank you.
Yes, please. No thanks.
5. What would you like ~ ?
6. These (Those) are ~ .
7. Is this a book? Are these (those) books?
8. There is a flower on the table. There are two pens on the table.
9. How many books are there on the table?
10. Whose socks are these? They are mine.
11. What's the matter with you?
12. His (Her) brother is an engineer.
13. Where do you they live? We (Susan and Paul) live on the ground floor.
He (She) lives in ~ .
14. What time is it? They get up at seven.
15. Do you like bread? I don't like meat.
16. Can you speak English? Yes, I can. No, I can't.
17. Betty goes to school on Wednesdays.
18. What are you going to do tonight? We're going to visit our grandma.

5学年 (Tieng Anh 3) : (3, 4 学年で履修したものは省略)

1. When does he feed the cattle?
2. Why does he go to bed early?
3. What are the students doing? They are learning in the classroom.

I am not (You are not/He is not) learning English.

4. Do you like math? No, I hate it because it's difficult.
5. In science we learn about animals and plants.
6. Is this his ball? No, it isn't. I think it's hers.
7. This house is smaller (bigger) than my house.
8. This is the oldest house in the village.
9. What animal is the tallest? What animal swing from tree to tree?
10. Where's Hoa sitting? She's sitting between Nga and Lan.
11. Where were you yesterday? I was at Lan's house.
12. I was born on 24 August, 1984.
13. She played badminton yesterday. What did you do yesterday?
14. What's the weather like in Hanoi? It's cloudy (rainy/sunny/windy).
15. What do you do in autumn? I often (always/usually/sometimes/never/rarely) play badminton.
16. Can you tell me the way to the cinema? Go straight ahead and turn right.
17. How long is your longest finger? The river is 80 meters wide.
18. What do you want to be? I want to be a doctor. He wants to be a singer.
19. What are you going to do this school holiday?

NC の 1 ～ 3 の文法項目の中で, TIENG ANH に含まれていない文法項目を列挙する。

1. She/He will ～; will she/he ～?; She/He will not ～
2. Will you ～?
3. Shall I ～?
4. 接続詞の that
5. 間接疑問文
6. 不定詞の副詞的用法と形容詞的用法
7. S + V + O + O (第 4 文型)
8. 付加疑問文
9. Why don't you ～?/How about ～?
10. 受動態
11. 現在完了形
12. how (what) to 不定詞
13. It is 形容詞 for 人 to 不定詞
14. 従属節
15. 関係代名詞
16. 後置修飾語句
17. want + 人 + 不定詞

Ⅳ. ベトナムの教科書から見てくること

1. ベトナム側の問題点——格差とインフラの不備、国家ビジョンと現実との乖離

- (i) ベトナムの小学校では、2部制（午前と午後）が主流で、北部山間部では3部制も存在する。全国的には、全日制は30%に過ぎない。ハノイ、ホーチミン市でも全日制はほぼ50%である。（JICA ベースライン調査報告書 2004：17）
- (ii) 小学校3年生から選択科目（Optional）として、週2時間、英語の授業を導入しているが、その実施率は、ハノイ・ホーチミン市などの都市部では80%であるが、少数民族が多く住む北部山間部などでは20%台にとどまっている。英語に対する要望が高いため、国としては、2020年度を目処に、100%実施を目標にしている。（ベトナム国、教育訓練省、初等教育局長 Dr. Thai 氏とのインタビュー、2005年8月31日、教育訓練省にて）
- (iii) テープ・レコーダーなどのAV機器や教材・教具の不備
バクザン省小学校英語教員とのインタビュー（2005年9月1日実施）では、教師たちは異口同音に、「教科書はコミュニケーション重視で編集されているが、学校には、テープレコーダーさえ十分ないのが実情である。」とのことである。
- (iv) ベトナムは共産主義の国家であり、国定教科書の進度は全国一律である。したがって、全国、いつ、どこでも、必ず、同じ教科書の同じ課を全ての児童が学習している。そのため、教師はかなりのプレッシャーを感じており、「落こぼれ」が深刻な問題となっている。保護者は、乏しい収入から工面して、子どもを私塾に通わせている。国の法律で、10段階階定で4以下の児童に補習授業を行うことになっているが、それも「有料」である。教師の収入源になっている。格差の“拡大再生産”になっている。（バクザン省小学校英語教員とのインタビュー（2005年9月1日実施））

2. 日本が「もって、他山の石」となすべきことから：

- ① 仮に、わが国の公立小学校で本格的に「英語教育」を始めるならば、教科書を（で）教える力のある小学校教師の養成・研修制度の確立が前提となるべきこと。
- ② 現状では、「英語活動」と「英語教育」の“すみわけ”——安易に「スキル」の育成を小学校英語の主たる目的にしないこと——を再確認する必要があること。
- ③ 焦眉の問題として、中学校英語教科書のコンテンツの見直しの必要性があること。
- ④ ただし、中学校の履修語彙数やテキストの量を増やす際には、学習者の負荷が増大することへの配慮、加えて、安易に「訳読式」の授業に陥らないために中学校教員を対象とした現職教育の拡充の必要性があること。（現行の日本の中学校英語教科書は語彙数も少なく、内容も易しいので、幸いにも、画一的な「訳読式」の授業になる必然性は低いと言える。）

結 語

2007年度のTOEFL-iBT（Internet-based）のスコアの国際比較によると、ベトナムは、総計が70点（120点満点）で、アジア36カ国の内、18位にある。片や、日本は、65点で36か国中、35位で、日本と同位にあるのは、カンボジアのみである。ベトナムのこの好成

績は、しかしながら、格差の上に築かれた、ほんの一握りの恵まれた受験者の成果といっても過言ではない。

シンガポールの RELC (Regional Language Centre) の上級研究員の Ho 氏は、現代のベトナムの英語教育の抱える課題を総括して、格差、クラス・サイズ、教師のリクルート、教材・教具の不足などを挙げ、このような問題が解決されない限り、英語教育の質的な改善は不可能であろうと断言している (Ho Wah Kam 2004: 18)。

現実には、社会の隅々まで根をはる「格差」が解消して、ベトナムの初等・中等学校の英語教育が、まさに「万人のための教育」(Education for All) となる日が訪れるまで、今しばらく待たなければならないということである。教育の恩恵をより多くの大衆が享受できるようになったとき、改めて、ベトナムの英語教育の質が本当の意味で問われることになるであろう。

引用 (参考) 文献

- 八田玄二 (2008) 「ベトナム—理想と現実の違いを考える：指導要領、教科書、教師そして授業から見てくるもの」『小学生に英語を教えるとは？ アジアと日本の教育現場から』東京：株式会社めこん、河原俊昭編 pp. 244-262
- 八田玄二 (2008) 『ベトナムにおける小学校英語教育の理想と現実——指導要領と教科書と現場教師の声』中部地区英語教育学会紀要第 36 号 pp. 263-270
- 石田暁恵・五島文雄 (2004) 『国際経済参入期のベトナム』東京：アジア経済研究所
- Japan Bank for International cooperation (2004). *Sector Study for Education in Vietnam JBIC Sector Study series 2003. No.1*. Tokyo.
- Kam, H. W. and Wong, R. Y. L. (Eds.) (2004). *English language teaching in East Asia today*. Singapore: Marshall Cavendish International Private Limited.
- Ministry of Education and Training (2003). *English subject program of primary education promulgated on 30th October, 2003*. Hanoi: Education Publishing House.
- Ministry of Education and Training (2005). *Tieng anh 1—3*. Hanoi: Education Publishing House.
- 森住衛他 (2006) *New Crown English Series 1—3* (文部科学省検定教科書) 東京：三省堂
- 文部科学省 (2007) 「平成 19 年度学校基本調査」
- 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』
- 田中義隆 (2008) 『ベトナムの教育改革 「子ども中心主義教育」は実現したか?』明石書店
- 坪井善明 (2008) 『ヴェトナム新時代—「豊かさ」への模索』東京：岩波書店
- その他：
- 朝日新聞平成 20 年 5 月 25 日朝刊 『小 3 英語 5000 校で一教育再生懇 モデル校設置方針』
- 朝日新聞平成 20 年 5 月 27 日夕刊 『小学生英語必修「早い段階」検討』
- 朝日新聞平成 20 年 5 月 30 日朝刊 『天声人語』
- 外務省ホームページ (2008 年 5 月 20 日) 『各国地域情勢』<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- TOEFL ホームページ (2008 年 5 月 20 日) TOEFL iTB Non-native English Speaking Examinees
- Classified by Geographic Region and Native Country from
- http://www.ets.org/Media/Research/pdf/71943_web.pdf
- インタビュー：

八 田 玄 二

1. ベトナム国, 教育訓練省 初等教育局長 2005 年 8 月 31 日
2. バクザン市, 英語教員との懇談会 2005 年 9 月 1 日
3. ホーチミン市, Special English School 英語塾長 Luu Minh Dung 氏 2007 年 3 月 3 日